

# 筆

者にとってコンピュータは、日常の活動を骨惜しみせず支援してくれる頼もしい伴侶である。それらには、身の大量の資料の管理や世界中の人智へのアクセス、日々作り出すさまざまな資料やプログラムの作成・検証支援が含まれる。直近の例には、写真のレタッチ、ファイル命名・閲覧・保存、山歩き等の地形・軌跡データ解析、それらにかかわるプログラム作成・検証、など。頑強で総重量が100グラム、B5以上の画面、完全防水になれば、山へでもスキー場へでも常に連れてゆきたい。

コンピュータ技術は、産業革命以来の発明の中で最も素晴らしいものの筆頭だ。それは、処理されるデータの伝達のための通信技術と結合してICTとして発展してきた。そのソフトウェアによって、従来の技術では大変な苦勞をした機械的な操作機構を、センサからの情報に基づいて作動させるシンプルなアクチュエータによって置き換えている。今日、枚挙に暇がないくらい、高機能で安価な工業製品が巷に溢れている。このような知識集約型の先端技術があまりにも安価な日用品として提供されるに及んで世間はそその有り難みをすっかり忘れてしまった。

人の意識やそれに基づく行動は、外界の刺激(情報)、あるいは深層の無意識に近い意識・発想を契機として、さらに情報を収集、知覚、認識、理解する段階を経て、より明確で発展的な形で具現化される。情報の収集から行動の各段階においてさまざまな情報処理活動が体の内と外とで同時並行的に行われている。これをICTにより「さりげなく知的に助けることによって、人の活動を支援したい」ということから、それを実現するものを、田村氏、美濃氏と語り合って「知能情報メディア」と呼ぶことにした<sup>1)</sup>。これは非常に幅の広い分野に跨る、技術者の「願望」であり、一挙に実現できるものではない。

コンピュータシステムほど知的興味をそそるものはそんなに多くはない。その仕掛けを知れば面白みが一層増す。筆者も、情報工学の学生に自らコンピュータを設計・製作することによって理解を深めてもらうべく、微力を注いできたつもりである。今日の情報ネ

## 池田克夫 IKEDA Katsuo

[名誉会員] katsuo-i@mbox.kyoto-inet.or.jp

1937年滋賀県生まれ。1960年京都大学工学部卒業、同大工学博士。1978年筑波大学教授、1988年京都大学教授、2001年大阪工業大学教授。京都大学・筑波大学・大阪工業大学 各名誉教授、2002年(財)京都高度技術研究所 所長。本会 Fellow、元理事。電子情報通信学会元副会長、IEEE Life Fellow ほか。

ットワークやクラウドコンピューティング技術は複雑多岐に渡っている。Webで検索すると直ちに概要は分かる。しかし、細部に踏み込もうとすると、ブラックボックス化と秘密保持/囲い込みのために、内容を理解するための情報が極度に限られ、容易に次の道が見つからない。このことは若い人たちにとって大きな壁であろう。技術の継承の点からも問題がある。若い人たちには、広い視野から、粘り強く大きな山に挑んでいただきたい。また、関係企業等には、その事業活動の本質に触れる重要な事柄であることは承知しているが、せつかくの人智をより広く有効利用できるように、広量なる配慮を望みたい。元来、科学研究の成果は人類の叡智であるとして、広く公開してきた。

基  
般

[シニアコラム]

IT好き放題



[No.13]

## コンピュータとともに半世紀 見果てぬ夢「知能情報メディア 環境の構築」

今日に至るも、何の見返りも求めずに成果を広く公開する GNU, Open Source, CPAN (Comprehensive Perl Archive Network), 電信八号などのような活動もある。深く敬意を表するものである。

技術、とりわけ ICT の進歩によって確かに我々の物質的な生活の内容は格段に豊かになっている。ここに至った多数の科学者・技術者の貢献は高く評価される。しかし、科学技術がすべてを解決すると考えるのは傲慢であろう。核や遺伝子技術のように、得られた成果の適用に慎重な配慮が必要なものも多い。知能情報メディアの環境も、かえって人間本来の知的行動能力を減退させるものとなる危険性がないとはいえない。科学技術進歩の基本となる人間の好奇心探求心と、その成果を一般に適用したときに現れる思いもつかぬ副作用への配慮も欠かしてはならない。

我が国が直面している急激な衰退を食い止める唯一の手段は、成熟したものづくり技術と優れた先端技術とによって、世界に貢献していくことであろう。いまだ方向を定めたばかりであるが、知能情報メディアの環境も人々の豊かな精神生活に寄与することを夢見るものである。

### 参考文献

1) Ikeda, K., Tamura, H. and Minoh, M.: An Intelligent Information Medium for Supporting Human Intellectual Activities, MULTIMEDIA '94 (July 1994).

(2011年9月24日受付)